

第2回

経済と流通の基礎
経済活動と流通

執筆・講師 粕谷和生



学習のねらい

第1回では、生産・流通・消費の一連のつながりが「経済」であることを学びました。ところが、これらはすんなりと、つながっているわけではありません。生産と消費の間には三つの隔りがあるため、これを橋渡しする活動が必要になります。この“橋渡し”が「流通」の役割です。流通の働きによって、生産者から消費者まで商品がスムーズに流れており、私たちは便利な生活を送っているわけです。

調べておこう・覚えておこう

流通／流通経路／時間的／売買／消費者ニーズ／消費者

※空欄 を「調べてみよう・覚えておこう」の語句で完成させましょう。

👉 Point ① 流通の役割と働き

生産と消費の間には、「人的隔り」「場所的隔り」「 ① 隔り」という三つの隔りがあります。

①は番組出題問題です。

「人的隔り」とは、生産者と消費者が別々の人であることから生じる隔りです。たとえば、米の生産者は農家の人ですが、消費者は私たちです。人的隔りは、商品を売り買する ② によって橋渡しされます。「場所的隔り」は、生産地と消費地が違うことから生じる隔りです。場所的隔りは、トラックなどによる「輸送」によって橋渡しされます。「時間的隔り」は、生産時期と消費時期が異なることから生じる隔りです。この隔りは、倉庫などに「保管」することによって橋渡しされます。これら三つの隔りを橋渡しするのが ③ の役割です。

👉 Point ② 流通機構と流通経路

商品を流通させるための社会的なしくみを「流通機構」といいます。また、商品が生産者から消費者まで渡る道すじを ④ といいます。これは商品によってさまざまです。

代表的な流通経路は、「生産者」➡️「卸売業者」➡️「小売業者」➡️「 ⑤ 」という経路です。

⑤は番組出題問題です。

このページの文書・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。

このほか、以下のような流通経路があります。

「生産者」→「消費者」：ケーキなど

「生産者」→「小売業者」→「消費者」：野菜など

「生産者」→「生産地の卸売業者」→「卸売業者」→「小売業者」→「消費者」：線香など

👉 Point ③ 実際の流通

経済の成長とともに、消費者が求めるもの、つまり「消費者ニーズ」は多様化してきました。それにともない「流通」も進化しています。

たとえば、「より新鮮な魚介類を食べたい」という消費者ニーズにこたえるため、魚などを生きたまま運ぶ「活魚車」と呼ばれる専用車があります。これは、かつて鉄道の貨車でしたが、現在では最新設備をもつトラックに進化しています。

また、実店舗（実際の店）に行くことなく、手軽に欲しいものを手に入れたいという消費者ニーズと、情報通信技術によってネットショッピングが急速に拡大しています。番組では、実店舗をもちながらネットショッピングにも力を入れている東京のある家電量販店を紹介します。ネットショッピングに関する客へのインタビューや売り場担当者の話は、とても興味深いものがあります。

ネットショッピングの手軽さを支える巨大物流センターの映像も必見です。この物流センターによって家電量販店でありながら、生活用品からレジャー用品まで、ありとあらゆる商品を取り扱えるということです。その数の多さは、番組の中で明かします。

流通は、⑥の多様化や、情報通信技術の発展などによって、日々進化しています。

⑥は番組出題問題です。

解答欄

① _____ ② _____

③ _____ ④ _____

⑤ _____ ⑥ _____

①時間的 ②売買 ③流通 ④流通経路 ⑤消費者 ⑥消費者ニーズ

このページの文書・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。